

# SDGs誕生の舞台裏

常磐大学・常磐短期大学  
富田敬子





# 目次

- **SDGsとは？**
- **SDGsは一日にして成らず**
  - ✓ 国連の開発戦略の混迷
  - ✓ SDGsをめぐる主導権争い
  - ✓ 加盟国と事務局の拮抗
- **SDGsをめぐる日本の国連外交**



# SDGsとは？

# SDGs (持続可能な開発目標)の誕生

## 国連持続可能な開発サミット

UN Sustainable Development Summit

2015年9月、150人を超える国家元首、世界のリーダーがNYに参集。国際社会共通の課題について協議



- 2000年に開催されたミレニアムサミットを継ぐもの
- 背後にあった未来社会についての強い危機感

国際連合広報局

# 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択

**Transforming our world:** the 2030 Agenda for Sustainable Development



## Preamble

This Agenda is a **plan of action** for people, planet and prosperity

世界の貧困を撲滅し、すべての人が  
平等な機会を享受し、地球環境を壊  
さずに、よりよい生活を送ることがで  
きる世界を目指す

# 「2030アジェンダ」の特徴

## 究極性

- ・ あらゆる形態の貧困撲滅を目的とする

## 統合性

- ・ 経済、社会、環境分野を包括的に網羅

## 時限性

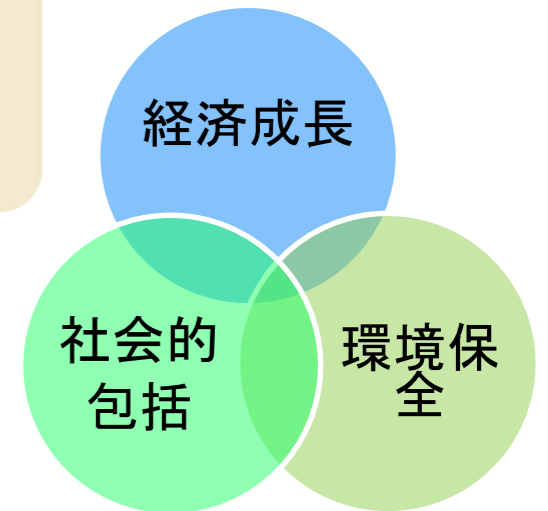
- ・ 2030年を年限とする

## 普遍性

- ・ 先進国も対象とするグローバル・アジェンダ

## 包括性

- ・ No one left behind(誰も取り残さない)  
社会的格差、農村・都市格差、弱者(性的マイノリティ、移民、障がい者など)への配慮



# SDGs (持続可能な開発目標)



## 17の目標、169のターゲット

出典 [https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)

# 持続可能な開発目標 (SDGs)

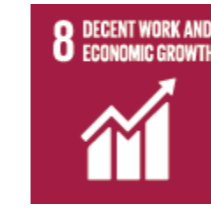
• 人間 (People):



• 地球 (Planet):



• 豊かさ (Prosperity):



• 平和 (Peace):



• パートナーシップ (Partnership):







**SDGsは一日にして成らず**



# 国連 ≠ 世界政府

- **設立** 1945年
- **加盟国** 193ヶ国
- **目的** 1) 国際平和と安全、2) 人権、3) 開発  
諸国の行動を調和するための中心となること
- **国連事務総長(SG)** 国連事務局の行政長。ただし、外交的地位は、各国の首相に相当する。
- **意志決定方式** 一国一票制。かなりの部分が合議制 恒常的なグループ(EU, G77+China, AUCANJUS, 等) の発言権が強い。

# 2010年ごろの国際社会

- つのる危機感（内紛、経済・社会格差）
- 環境問題の台頭
- 国連不能・不要説
- 残る5年でMDGsをどう達成するか？

## MDGs

- ◆ 2000年の国連ミレニアム・サミットで採択された「ミレニアム宣言」を受け掲げられた。2015年を期限とする8つの国際目標
- ◆ 90年代に開催された主要な国際会議やサミットでの議論を統合
- ◆ 開発途上国向け、社会開発問題が中心



# SDGs誕生を支えた2つの大きな流れ

## 1. MDGsに次ぐ開発戦略の模索

- 2010年 MDGs High Level Panel (HLP)会議が、事務総長に2015年以降の開発戦略について考察を要請(国連決議65/1)
- 2012年1月 UN事務局とUNDPが「ポスト2015年開発アジェンダに関する国連システム・タスクフォース」を発足させる
- 国際的な共通課題の中心に何を置くか、どの国、どの国際機関が主導権を取るかの小競り合い
  - ・ 地球温暖化対策を推進したいグループ(EU)
  - ・ ODAの総額を増やしたいグループ(LDCs)
  - ・ MDGsを引き継ぎ国連中心の国際協調を続けたいグループ(UN システム)
  - ・ 自国の外交アジェンダを推進したいグループ(US, 日本)

# SDGs誕生を支えた2つの大きな流れ

## 2. Rio+20 地球サミットからの流れ

- 2012年6月 リオ・デジャネイロで「国連持続可能な開発会議」(UN Conference on Sustainable Development)が開催される
- 地球温暖化への懸念、気候変動枠組み条約(UNFCCC)の採択
- 成果文書“The Future We Want”の中で、持続可能な開発目標 (SDGs) の設置に向けて政府間交渉のプロセスを立ち上げることを決定 (国連決議63/288)

✓ “ポスト2015アジェンダ”に替わり、“SDGs”という言葉が正式に誕生



# ユニークな合意形成過程

- 2013年 Open Working Group (OWG) on SDGs の設置。2014年7月までに13セッションを開催して協議
- トロイカ(Troika)システムを導入。関心を同じくする国々が、30のグループを構成して意見を調整  
例： Australia-Netherlands-UK  
Iran-Nepal-**Japan**
- 国連システムは、DESAとUNDPからなるTechnical Support Team (TST) を設置して交渉をサポート。徹底した加盟国主導が貫かれる
- あらゆる関係者(NGOs、民間企業、教育機関など)の役割を意識
- 2015年1月～6月 政府間交渉によるゴール、ターゲット設定



# 交渉の主な争点



- MDGsの価値が失われてしまわないか？  
環境問題の陰に開発問題は軽視されてしまう？
- 開発援助のための資金の流れが変わってしまう
- ゴールの数が多すぎて理解されにくい
- 文化、宗教の違いに由来する見解の相違  
例：Target 3.4 Sexual & reproductive health care services
- ゴール16 (Peace, Justice & Strong Institution) は分割されるべき
- ゴール12 (作る責任、使う責任) は大量生産・消費のライフスタイルを標榜する国が反発

参考：Nikhil Seth (2019)



# SDGsをめぐる日本の国連外交





## 日本政府の動き

- 2011年 MDGsフォローアップ会合を東京で開催
- 日本の外交アジェンダ 「人間の安全保障」
  - ✓ 緒方貞子氏、アマチア・セン氏が推奨した概念。国際開発の根源的目標である「欠乏からの自由」、「恐怖からの自由」に、「尊厳ある人間生活」を加えた三つが、**人間の安全保障**の主要三要素
  - ✓ 物理的な身の安全 (Security) から、人間一人一人の保護も目指す
  - ✓ 国際社会では、必ずしも受け入れられず
  - ✓ 「人間の安全保障」=「誰も取り残さない」??

# 日本外交のSDGsへの貢献(1)

3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING



3.8 すべての人々に対する財政保障、質の高い基礎的なヘルスケア・サービスへのアクセス、および安全で効果的、かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンのアクセス提供を含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)を達成する。

- UHC (Universal Health Coverage)とは「すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられる」ことを意味する
- それまで、保健分野における国際協力では、疾患別のアプローチが主流だった (例: マラリア、HIV/AIDS)
- 日本の経験を生かした保健外交を展開。G8首脳会議や各種サミットなどで、UHCの大切さをアピール
- フランスやタイなどからの支持を得て、SDGsに組み込まれる

## 日本外交のSDGsへの貢献(2)



11.B 2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靱さ(レジリエンス)を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。

- 仙台防災枠組とは今後の災害リスクを削減し、潜在的なリスク要因を減少させるための行動指針。2030年までを期限とする。
- 2015年3月に仙台市で開かれた第3回国連防災世界会議で採択された。東日本大震災から復興途上にある仙台市で開催される。その経験に基づく災害リスク管理強化の呼びかけに、大きな注目が集まる。
- 準備会議、専門家会議の段階から、SDGs設定の動きとリンクさせる。



## 結びに

- SDGsのような国際目標、行動計画の策定には長い準備期間を要する
- その間、合意形成過程で、熾烈な外交交渉、主導権をめぐる群雄割拠が繰り返される
- SDGs採択後の実践的解釈を評価
- 超野心的なSDGsの目標達成には懐疑的
- しかし、人々の意識と行動変容に、少なからず影響を与えている

ご清聴  
ありがとうございました



常磐大学 常磐短期大学

